



【第23回 COBRAゼミナール】

特定非営利活動法人
建設副産物リサイクル促進機構

日 時：平成20年12月9日（火） 18:00~19:00
場 所：アカデミー文京 学習室（文京シビックホール地下1階）
講 師：岩永公二 様（株）ガイア 財務経理部長）
演 題：『今更聞けないサブプライムローンあれこれ』
内 容：



まさに直近で起こっている経済問題に関し講演いただいた。その内容は、自己紹介から始まり、証券化用語、サブプライムローン問題、証券化商品のリスク及び問題点、今後のサブプライム問題動向・米国の施策、日本経済、さらには、日本の金融機関の姿勢に至るまで多岐に渡るものであった。



- 問 題；9.11 テロ後の米国金融緩和と証券化商品の開花を時代背景として、サブプライムローンを含め色々な債権・証券を組み合わせ大量・多様に回った証券化商品が2006年7月をピークとした米国住宅価格バブルの崩壊により価格暴落
- 背 景；たくさん組合わせるとリスクが収斂し安全になるという大数の法則の鵜呑み AAA格付バブル
- 錯 誤；自然科学と異なる現象を金融工学という美名に酔って独立変数に仕立てしまったこと
- 不 安；現在の経済問題の広がりについてはその規模を把握しきれないのが本当の所
証券化商品は手造り且つ私募債 中が見えない 取引が透明化できない 不安に苛まれ
疑い合って 買い手がないからあるべき価格を大幅に下回る気配値で評価 = 実体以上の評価
損計上 巨額な規模なので金融市場全体が機能不全に陥る 信用収縮の連鎖
- 読 み；サブプライムローンはがん細胞？どこに潜んでいるのか、いつ大きな病になるのか、何時終息するのか、金融市場参加者が皆疑心暗鬼 現状は米国住宅バブル崩壊継続中 2000年の住宅価格水準に戻るには2~3年必要 信用収縮はこの時点まで続く可能性あり
- 数 値；GDP、設備投資、民間投資、工業生産、失業率など 全悪化
世界デリバティブ市場6京円、米国債券市場2600兆円、サブプライムローン規模90兆円
米国発商品に係る損失額推計（証券化+融資）140兆円 等
- 心構え；長期化する、ますます厳しくなると理解しておけば怖くない
銀行はBIS自己資本比率基準クリアするために健全な貸出資産を回収して総資産を圧縮することもありうる
- 考 え；・銀行は産業を助けるためにある
将来になにか残す夢がなくてはいけない
・大メーカー、下請企業の賃金格差を温存すると、これからは中小企業に人は来ないし、あつと言う間に技術は消え去る
中小企業による日本の技術基盤を守ってほしい
・BSやPLに現れないものは一杯あり、これをつぶせば日本経済は危ない
人材・技術・顧客基盤、歴史（=信用）
終身雇用や年功序列は在職中の企業年金の役割を果たし、企業の技術蓄積や長期安定成長に有効

質 疑： 黒字倒産増？；ある業界のピカピカ企業が突如リスケに追い込まれた
運転資金の折り返し調達が難しい現状ではキャッシュ残高維持が経営最優先事項
理屈じゃない

参加者： 会員16名、非会員6名、合計22名（交流会参加者：19名）